

富山・石名田木舟遺跡 (2)



(石動)

遺跡は、富山県の西部に位置し、小矢部市石名田地区と福岡町木舟地区にまたがり、本調査地区は遺跡北側である。遺跡は、町東部の平野部の微高地上に所在し、標高二二m程である。一九九四年に県道建設に伴い発掘調査を実施した。その結果、古代の住居二棟などを検出し、須恵器・土師器・瓦塔・奈良三彩・仏具などが出土した。中でも瓦塔は、飛鳥様式に崩組高欄

1 所在地 富山県西礪波郡福岡町木舟

2 調査期間 一九九四年(平6) 六月～十二月

3 発掘機関 福岡町教育委員会・富山県埋蔵文化財センター

4 調査担当者 橋本正春

5 遺跡の種類 集落跡・寺院跡か

6 遺跡の年代 縄文時代～近世

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

や阿弥陀三尊仏が確認され注目された。他に中世の遺構と遺物も出土している。

将棋の駒は、調査区北の溝(幅四m、深一m)から「王」が、土坑(長一・五m、幅一m、深〇・五m)からは「金将」が、多数の木製品とともに出土した。溝と土坑の時代は中世(一一～一二世紀)で、ほぼ同時期である。伴出遺物としては、越前焼・珠洲焼・箸・下駄・漆塗碗・銅銭・釘・刀子・基石などが出土している。

8 木簡の釈文・内容

(1) 「王」

(37)×(21)×1.061

右側が欠けており、薄い板材に「王」一文字を墨書する。裏面は無文字である。

(2) 「金将」

30×28×12.061

完形品で芯持材の中央部を使う。「金」一文字は、彫った後墨書し、「将」は彫らずに墨書する。裏面は無文字である。上端は、二mmと薄く、下端辺は一二mmと部厚い。

9 関係文献

福岡町教育委員会『富山県福岡町 石名田木舟遺跡発掘調査報告書』(一九九五年) (橋本正春)